

研究主題 新科目「歴史総合」における歴史的な見方・考え方を働かせる学習指導に関する研究

－生徒が問いを表現し、資料を活用して追究する授業の在り方について－

【研究担当者】 ◎大前昌己 菊池 勉 五十嵐 忠義
及川伸也 前川 啓太郎 中野 誉史

【この研究に対する問い合わせ先】
TEL 0198-27-2735 FAX 0198-27-3562
E-mail kyouka-r@center.iwate-ed.jp

I はじめに

新科目「歴史総合」に期待されるもの

令和4年度から新科目「歴史総合」が始まります。この科目は、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を生徒が主体的に考察・構想できるように配慮された科目であり、急激な社会の変化に伴う予測困難なこれからの時代に求められる資質・能力を育成することが期待されています。

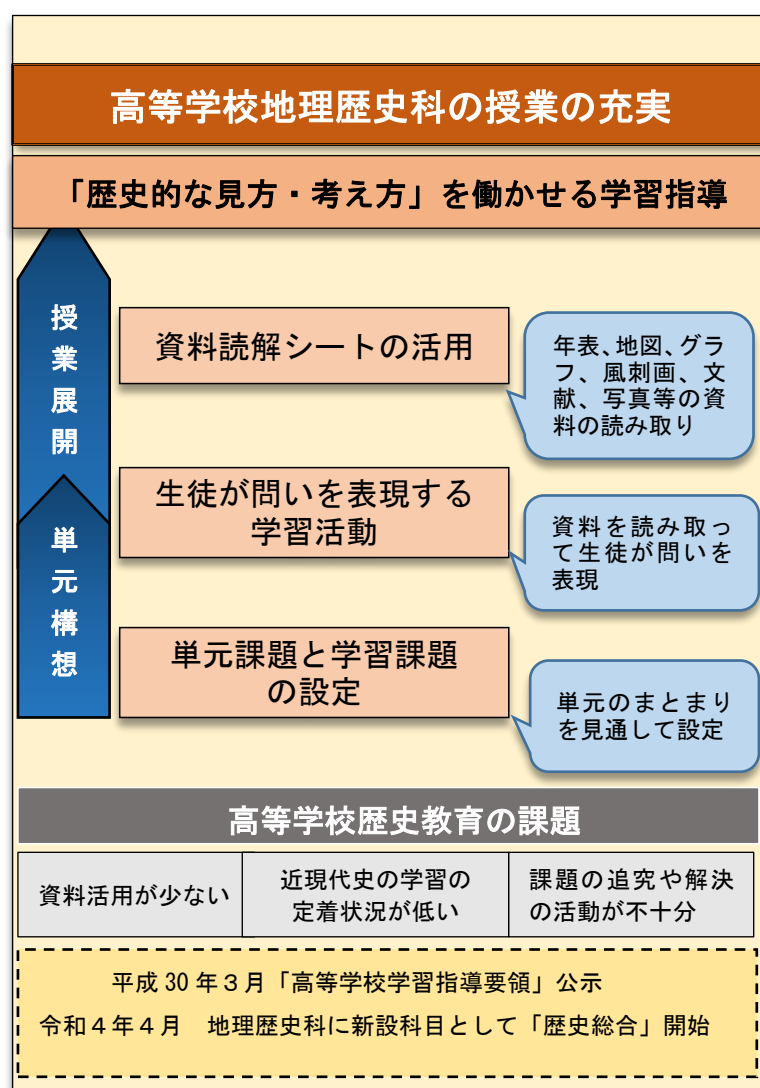
歴史科目の授業の現状

歴史科目の授業が抱える課題として、①資料の活用が少ない、②近現代史の学習の定着状況が低い、③課題の追究や解決の活動が不十分、などがあげられ、知識の伝達や教え込みに主眼を置く通史学習から脱却し、生徒自らが歴史的な見方・考え方を働かせて、歴史的な事象を考察・構想する歴史の学び方を習得していくことが望まれます。

本研究の目指すもの

そこで、本研究では、生徒が問いを表現し、資料を活用して追究することで歴史的な見方・考え方を働かせる単元の構想例と授業展開例を示し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を目指しました。

【研究構想図】



研究の目的

本研究は、新科目「歴史総合」において、生徒の公民としての資質・能力を育むための在り方を示すことで、地理歴史科の授業の充実を目指します。

II 研究構想

生徒による問いの表現について

「歴史総合」では、大項目B、C及びDの(1)で問いを表現し、大項目D(4)では、生徒各自が主題を設定し、諸資料を活用して探究活動を行います。

「問いを表現する」とは…

「資料から、生徒が情報を読み取ったりまとめたり、複数の資料を比較したり関連付けたりすることにより、興味・関心をもったこと、疑問に思ったこと、追究したいことなどを見いだす学習活動」〔高等学校学習指導要領解説地理歴史編（平成30年7月）p.129〕を意味しています。

大項目	中項目	教師	生徒	
A	(1)	課題（問い）の設定		
	(2)	課題（問い）の設定		
B	(1)		問いを表現する	
	(2)	主題、課題（問い）の設定	↓	
	(3)	主題、課題（問い）の設定		
	(4)	主題、問いの設定		（問いの設定も可）
(1)		問いを表現する		
C	(2)	主題、課題（問い）の設定	↓	
	(3)	主題、課題（問い）の設定		
	(4)	主題、問いの設定		（問いの設定も可）
	(1)			問いを表現する
D	(2)	主題、課題（問い）の設定	↓	
	(3)	主題、課題（問い）の設定		
	(4)	生徒の探究活動を指導（支援）		主題の設定

【「歴史総合」における課題（問い）の設定、問いの表現、主題の設定のまとめ】

生徒が問いを表現することを踏まえて、授業実践では3つの手立てを授業に位置付けました。

歴史的な見方・考え方を働かせるための手立てを用いた授業	
手立て1	単元のまとまりを重視し、単元課題と各単位時間の学習課題を設定することで、生徒が課題を追究したり解決したりする授業
手立て2	生徒が問いを表現し、見通しをもって学習に臨み、その後の歴史につなげることができる授業
手立て3	「資料読解シート」を作成し、生徒が資料を活用して追究し、歴史的な事象を多面的・多角的に考察・構想する授業

III 授業実践

授業実践校、対象学年及び授業者（研究協力員）

花巻北高等学校第2学年理系（5、6組） 教諭 千葉 忍
不來方高等学校第2学年体育学系（7組） 教諭 遠藤 広樹

単元

大項目B 近代化と私たち
中項目（3）国民国家と明治維新 小項目（イ）

手立て1 単元課題と学習課題の設定

授業実践4時間の見通しをもつ。

単元課題：帝国主義による列強の進出はどのように展開され、国際社会にどのような影響を与えただろうか。
また、日本はどう関わっただろうか。

学習課題①	学習課題②	学習課題③	学習課題④
列強のアジア進出はどのように展開されただろうか。	列強のアジア進出に対して、日本はどのように対応したのだろうか。	日露戦争の結果は、日本とアジア諸国にどのような影響を与えただろうか。	日露戦争の結果、国際関係はどのような変化が生じたのだろうか。

資料読解シート [No. 1]

【本文読解】「本朝論」
 ○「朝貢体制」による列強の進出はどのように展開され、国際社会にどのような影響を与えただろうか。また、日本はどのように変わっただろうか。
 ○「開港場論議」「列強のアジア進出はどのように展開されたのだろうか。」

A. 19世紀後半のアジア進出の経緯を整理しよう。

年	出来事	影響
1853	黒船来航	鎖国体制の崩壊
1854	日米和親条約	開港場の指定
1858	日米修好通商条約	通商手続の簡便化
1860	日清和親条約	通商手続の簡便化
1862	日英和親条約	通商手続の簡便化
1863	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1864	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1865	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1866	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1867	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1868	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1869	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1870	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1871	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1872	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1873	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1874	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1875	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1876	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1877	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1878	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1879	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1880	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1881	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1882	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1883	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1884	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1885	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1886	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1887	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1888	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1889	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1890	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1891	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1892	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1893	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1894	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1895	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1896	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1897	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1898	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1899	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1900	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1901	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1902	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1903	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1904	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1905	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1906	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1907	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1908	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1909	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1910	日米通商航海条約	通商手続の簡便化
1911	日米通商航海条約	通商手続の簡便化

資料読解シート [No. 2]

【本文読解】「本朝論」
 ○「朝貢体制」による列強の進出はどのように展開され、国際社会にどのような影響を与えただろうか。また、日本はどのように変わっただろうか。
 ○「開港場論議」「列強のアジア進出はどのように展開されたのだろうか。」

B. 19世紀後半～20世紀初頭 列強の進出

【本文読解】「本朝論」
 ○「朝貢体制」による列強の進出はどのように展開され、国際社会にどのような影響を与えただろうか。また、日本はどのように変わっただろうか。
 ○「開港場論議」「列強のアジア進出はどのように展開されたのだろうか。」

C. 世界の工業革命による各領土の動向

※ 本朝論の「1」の欄を右欄の「1」に記入しよう
 ※ 列強の進出がもたらした影響を整理しよう
 ※ 本朝論の「2」の欄を右欄の「2」に記入しよう
 ※ 本朝論の「3」の欄を右欄の「3」に記入しよう
 ※ 本朝論の「4」の欄を右欄の「4」に記入しよう
 ※ 本朝論の「5」の欄を右欄の「5」に記入しよう

手立て2
 生徒による問いの表現

生徒各自が問いを表現した後、グループで問いを共有。単元の最後（4時間目）に振り返り。

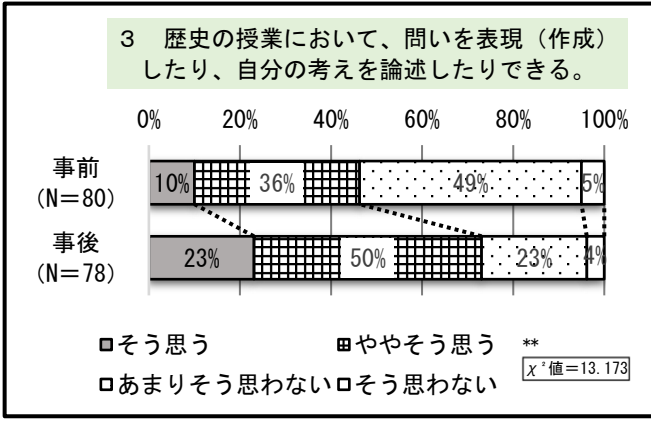
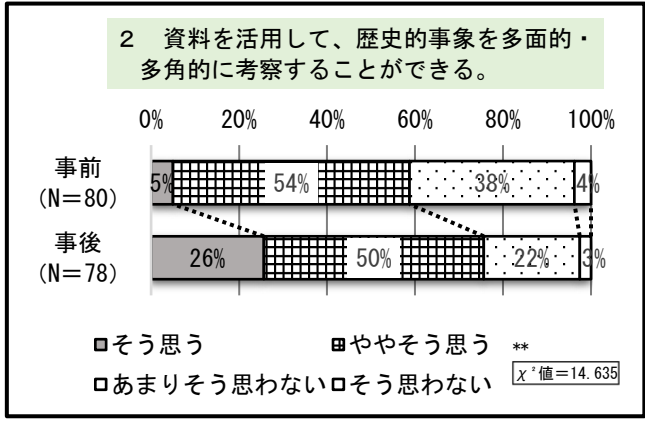
手立て3
 資料読解シートの活用

1 単位時間につき、A4版2枚分を使用。

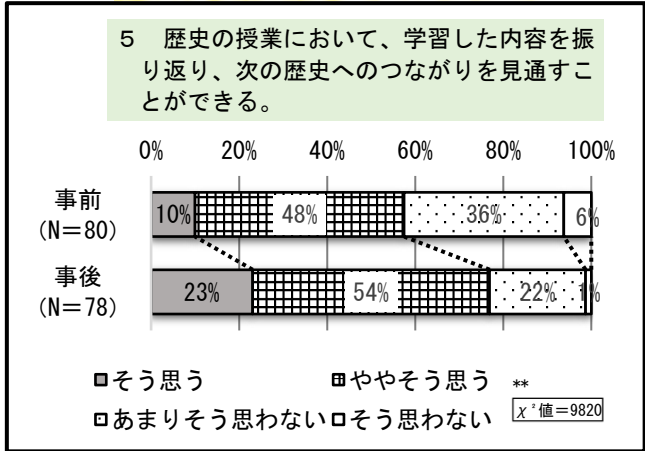
IV 実践の検証と分析

授業実践前後の生徒アンケート調査の結果（抜粋）

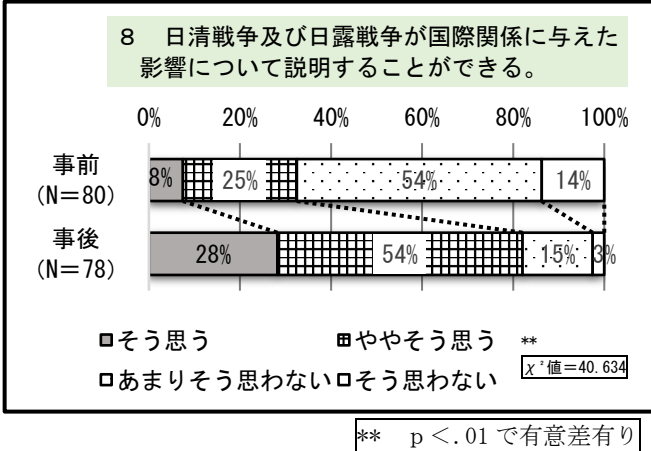
【思考力、表現力、判断力等】に関連



【学びに向かう力、人間性】に関連



【知識及び技能】に関連



授業実践前後に生徒に行ったアンケート結果の分析では、肯定的な回答が授業後に有意に増加する結果となりました。3つの手立てである「単元課題と学習課題の設定」「生徒による問いの表現」「資料読解シートの活用」は、生徒が歴史的な見方・考え方を働かせることにつながり、資質・能力の育成に効果的であり、主体的・対話的で深い学びの実現を可能にと言えます。

授業実践後の生徒記述アンケートから（抜粋）

○問いを表現し、課題を追究する学習について

- ・自分で問いを作ることによってさらに学習したり、いろいろな視点で物事を考えられたりしてよかった。
- ・より深く考えることができた。理解も思考力も深まり、良い学習方法だと思った。

○資料（「資料読解シート」の活用について）

- ・資料を活用して、歴史的な事象を多面的に考察することができてよかった。
- ・資料で得られる情報から考察する力が付いたと思う。

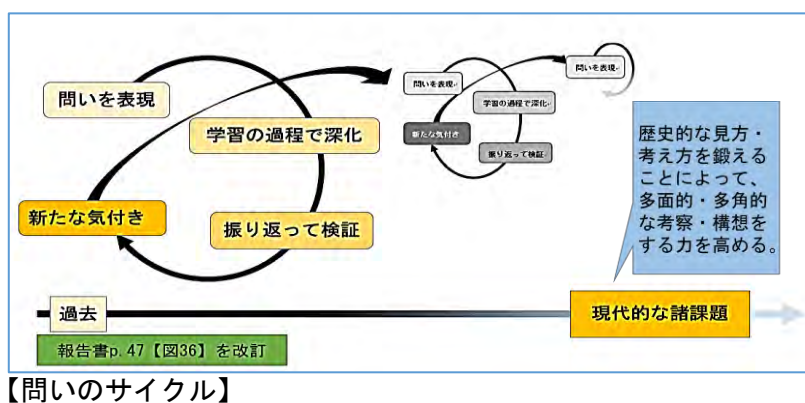
○授業実践の感想

- ・最初は問いをたてることに抵抗していたが、問いの考察をして自分の理解が深められた。

授業実践前後の生徒アンケート調査の結果及び記述アンケートの感想から、生徒が問いを表現する活動は、グループ学習による問いの共有も含めて、思考力、判断力、表現力等の育成及び学びに向かう力、人間性の育成につながりました。また、資料（資料読解シート）を活用して追究することは、知識及び技能を深めることに効果的であったと言えます。

現代的な諸課題の考察に向けて

生徒が表現した問いは、授業を通じながら考察することで深化し、振り返って検証され、新たな気づきから次の問いの表現につながります。過去から現在にかけての問いの繰り返しが、現代的な諸課題に対する多面的・多角的な考察・構想をする力を高めていきます。



V 研究のまとめ

「歴史総合」の授業においては、知識の伝達や教え込みに主眼を置く通史学習による授業からの脱却が必要となります。生徒が問いを表現して問題意識をもち、資料の読み取りや他者との対話を進め歴史的な見方・考え方を働かせながら歴史的な事象を考察・構想することで、課題の追究や解決に向かう主体的・対話的で深い学びを実現

する授業改善が期待できます。

今後に向けて

- (1) 生徒の思考を促す適切な資料の提供について継続した研究が必要となります。
- (2) 授業者にとっては、生徒の多様な考えを引き出しまとめるといったファシリテーター（進行役）としてのスキルが求められます。
- (3) 授業者は、「歴史総合」の授業を開始するに当たり、内容や項目のつながりに留意した系統的な授業計画（シラバス）を作成する必要があります。
- (4) ICTの活用は生徒の学習の幅を広げ、生徒が主体的に取り組む学習に効果的であり、その活用を進めていきたいと考えます。

研究報告書と補助資料は、下記の岩手県立総合教育センターのWeb ページに掲載しております。

<http://www1.iwate-ed.jp/kankou/kkenkyu/176cd/r02ken.html>

QRコード

